

令和元年6月28日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05068

研究課題名(和文)医療通訳・コーディネーターの教育プログラムの看護大学と外国語大学による開発と検証

研究課題名(英文) Education for Medical Interpreters and Coordinators: Toward the Establishment of Effective Curriculum in University Medical Interpretation and Coordination Programs

研究代表者

加藤 憲司 (KATO, Kenji)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：70458404

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,800,000円

研究成果の概要(和文)：昨今、海外から来日する外国人が急増している一方、集住地域等に長年定住する外国由来の人々の高齢化も進行している。それらの人々の多くは日本語が不自由なため、我が国において医療サービスを受用するうえで様々な困難を伴う。こうした場面において活躍するのが医療通訳であり、そのニーズは増大の一途をたどっている。しかし医療通訳がその能力を十分に発揮するためには、外国人等の言語や背景となる医療文化などに対する医療従事者側の理解が求められる。本研究では、こうした医療通訳と医療従事者との間の橋渡し(コーディネーション)の役割を担う人材の必要性を明らかにし、そうした人材をいかに育成するかについて提言を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は看護系大学・学部の教員と外国語系大学・学部の教員とを中心に構成されているのに加え、実際に医療現場で医療通訳として活動している研究分担者も複数名おり、本研究の多様性を物語っている。2019年1月に神戸市にて神戸市看護大学と一般社団法人全国医療通訳者協会(略称：NAMI)とが共同でシンポジウムを開催し、報告書『医療通訳・コーディネーター・看護職における現任教育と協働の可能性』として取りまとめた。NAMIは医療通訳の職能団体であり、医療通訳と看護師等の医療従事者とが直接交流する場を設けることにより、医療通訳にまつわる諸課題の解決に向けての認識と方策を共有・共創することができた。

研究成果の概要(英文)：Recently, while the number of foreigners coming from Japan has been increasing rapidly, the aging of people of foreign origin who have settled for many years in the community area etc. is progressing. Many of them are inconvenient in Japanese, which causes various difficulties in enjoying medical services in our country. Medical interpreters are active in these situations, and their needs are ever increasing. However, in order for medical interpreters to make full use of their abilities, medical practitioners need to understand the language of foreigners, etc. and the background medical culture. In this research, we clarified the necessity of human resources who take on the role of bridging (coordination) between medical interpreters and medical workers, and made recommendations on how to foster such human resources.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：医療通訳 コーディネーター 看護

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、グローバル化が進展するにつれ、国内の定住外国籍市民が急速に増加している。平成16年に外国人登録者数が200万人を超えてからも、外国籍市民の定住化は長期にわたって増加傾向にある。それに伴って、彼らが医療・保健・福祉の分野で言葉の壁に直面するケースが、以前とは比較にならないほど増えている。

また短期的滞在の旅行者も増加している。外国人旅行者は平成25年に年間1,000万人を突破した。またメディカルツーリズムによる外国人患者の受け入れも始めている。特に神戸市では、平成26年3月に兵庫県が京都府・大阪府とともに「国家戦略特区」に指定され、「国家戦略特別区域高度医療提供事業」が国の認定を受けたことから、高度医療を求める外国人患者の急増が見込まれている。

このような動きの中で、医療現場における外国人利用者の言語的不安や情報不足への対応が喫緊の課題となっていることから、これらの問題を直接的に解決する存在として、医療通訳やその連携・調整（コーディネーション）を行う人材が急速に必要性を増している。医療通訳業務は、高度な語学力や通訳技術のみならず、医学用語や医療制度、医療文化についての専門的知識が必要である。そのため、外国人の文化的背景や特性を理解し、他の医療スタッフ等との連携・調整を行う看護職（保健師・助産師・看護師）が「多文化医療コーディネーター（仮称）」として機能を果たすことは、円滑で質の高い医療通訳業務の遂行にとって極めて意義が大きい。

こうした背景から、神戸市看護大学と神戸市外国語大学では、大学教育において医療通訳・コーディネーターを育成するための教育プログラムの開発を行うと同時に、当事者である医療通訳と医療職者間におけるコミュニケーションの機会を積極的に設けることによって、その重要性を検証した。

2. 研究の目的

大学や医療機関、自治体等における、医療通訳を取り巻く現状を明らかにする。

神戸市域において、医療従事者および医療通訳が直接対話する場を設けることにより、双方向コミュニケーションのプラットフォームを構築する。

これらを参考に、看護大学と外国語大学とが共同して行う医療通訳・コーディネーターの入門講義・演習を洗練・充実させ、教育の可能性を模索する。

3. 研究の方法

研究目的 については、同分野における先進的な取り組みを実施している機関や組織を訪問したり集会等に参加する、あるいは講師を招聘して研修等を実施し、常に最新の動向を情報収集したり、あるべき方向性について討議したりした。

研究目的 については、神戸市内の会場において、医療通訳者の職能団体である全国医療通訳者協会（NAMI）第3回総会とタイアップし、医療通訳に加えて看護師を初め

とする医療職者にも広く門戸を開いた公開シンポジウムを開催した。

研究目的 については、学生向け講座、市民向け講座をそれぞれ開講し、授業後のアンケート調査と聞き取り調査によって検証した。

4. 研究成果

本研究における様々な活動の最終成果物として、次項に示すとおり『医療通訳・コーディネーターの育成：看護職における現任教育と協働の可能性』（编者代表：加藤憲司）を製作した。この報告書は実質的に、2019年1月12～13日に神戸市にて開催された、神戸市看護大学と一般社団法人全国医療通訳者協会（略称：NAMI）との合同シンポジウムに基づくものである。そのプログラムの内容を右下図に示す。

このシンポジウムは上述のNAMIの年次総会が初めて関西で開催されるのに合わせて、本研究の主要メンバーが所属する神戸市看護大学が合同で主催する形で実現された。NAMIは医療通訳者の職能団体であるが、医療通訳者の言わばカウンターパートナーである看護師等の医療職者とが直接的に交流する場を設けることは、医療通訳にまつわる諸課題の解決に向けての意義深い取り組みであるとともに、本研究の目的達成に資するものでもある。

図 シンポジウム「医療通訳・コーディネーター・看護職における現任教育と協働の可能性 in 神戸」プログラム

医療通訳・コーディネーター・看護職における 現任教育と協働の可能性 in 神戸

1月12日(土) 受付 13:00

開会式 13:30

シンポジウム 1 13:45-15:15

全国の医療通訳システム構築に向けての課題分析」

分科会 15:30-17:00

分科会 1 「病院勤務の通訳者の現状と課題」

分科会 2 「母子保健と医療通訳・コーディネーター」

1月13日(日) 受付 9:30~

分科会 10:00-12:00

分科会 3 「通訳者向け研修：医療通訳ロールプレイ研修：

英語・中国語・ポルトガル語」

分科会 4 「医療者向け研修：外国人患者に対する実践コミュニケーション」

全体会 13:00-13:45

「各シンポジウム・分科会の発表と課題整理」

シンポジウム 2 14:00-16:00

「医療通訳コーディネーターの育成と医療通訳者」

また、本研究の研究チームは看護系大学・学部の教員と、外国語系大学・学部の教員とを中心に構成されている。このことは本研究の大きな特徴と言える。その一方で、実際に医療現場で医療通訳として活動している研究分担者も複数名いることが、本研究の

多様性を物語るものと見ることができよう。なお、本研究は科学研究費助成事業において、「看護学」分野のうちの細目は「基礎看護学」、キーワードは「看護教育学」として採択されたものである。したがって本研究の本質的なテーマは看護教育であることも、特筆に値する。

その他、表1に示すとおり、学生向けの医療通訳・コーディネーター教育を実施し、教育効果を検証した。受講生からは概ね好評を得たが、特に看護系の受講生が残念ながら年々減少傾向となった。また表2に示すとおり、市民向け公開講座において、医療通訳・コーディネーター教育を実施した。受講者数は20~40人程度であり、教育プログラムも概ね好評であったが、実践的な演習を希望する声が多かった。

表1 学生への講義の内容(平成29年度の例)

NO	テーマ	担当者	担当者所属
1	医療通訳とは	中村 安秀	大阪大学
2	医療通訳の現状	村松 紀子	医療通訳研究会(MEDINT)
3	感染症対策	山下 正	神戸市看護大学
4	医療制度・診療の流れ度	益 加代子	愛知県立大学
5	通訳の基本	長沼 美香子	神戸市外国語大学
6	母子保健(妊娠・出産・育児)	嶋澤 恭子	神戸市看護大学
7	外国人医療の現状:ナースとして	新垣 智子	りんくう総合医療センター
8	精神保健	植本 雅治	神戸市看護大学
9	異文化間コミュニケーション	山口 征孝	神戸市外国語大学
10	医療通訳1	川越 栄子	神戸女学院大学
11	医療通訳2	川越 栄子	神戸市看護大学
12	演習1(英語)	松岡 綾子	医療通訳者
13	演習2(英語)	松岡 綾子	医療通訳者
14	演習3(中国語)	岡本 悠馬	中国語医療通訳者・鍼灸師
15	演習4(スペイン語)・総合討議	松村 太	バイエル薬品・医師

表2 市民公開講座の内容(平成28年度の例)

テーマ	医療通訳をやってみませんか? ~基礎から応用へ~	
日程	講座名	担当講師
7月2日	通訳とは何か	長沼美香子

7月9日	医療英語 基礎から応用へ	川越栄子
7月16日	神戸市における医療通訳の取り組み	李裕美
7月23日	医療通訳ロールプレイ(1) 英語	松岡綾子
7月30日	医療通訳ロールプレイ(2) スペイン語・中国語	村松紀子・岡本悠馬

5. 主な発表論文等

〔書籍〕 1件

著者名：編者代表・加藤憲司

出版社：神戸市看護大学

書名：医療通訳・コーディネーターの育成：看護職における現任教育と協働の可能性

発行年：2019年

総ページ数：98ページ

6. 研究組織

〔研究代表者〕

70458404	加藤 憲司	KATO Kenji	神戸市看護大学	看護学部 教授
----------	-------	------------	---------	---------

〔研究分担者〕

00149709	鈴木 志津枝	SUZUKI Shizue	神戸市看護大学	看護学部 教授
10199416	船山 仲他	FUNAYAMA Chuta	神戸市外国語大学	外国学研究所 名誉教授
50102794	福嶋 教隆	FUKUSHIMA Noritaka	神戸市外国語大学	外国学研究所 名誉教授
50572400	田中 紀子(村松紀子)	MURAMATSU Noriko	愛知県立大学	外国語学部 非常勤講師
50748465	岡本 悠馬	OKAMOTO Yuma	神戸市外国語大学	外国学研究所 非常勤講師
80285361	川越 栄子	KAWAGOE Eiko	神戸女学院大学	共通英語教育研究センター 教授

80460012	長沼 美香子	NAGANUMA Mikako	神戸市外国語大学	外国語学部 教授
80511922	益 加代子	EKI Kayoko	大阪府立大学	看護学研究科 准教授
90176644	植本 雅治	UEMOTO Masaharu	神戸市看護大学	看護学部 名誉教授
90381920	嶋澤 恭子	SHIMAZAWA Kyoko	神戸市看護大学	看護学部 准教授
90613092	山下 正	YAMASHITA Tadashi	神戸市看護大学	看護学部 助教